

「男女

共同参画って言っても
ねえ」と思うかもしれ
ませんが、実は、日本の選挙で初めて

投票した女性は、島田市（旧福用村・横岡村・牛尾村など）の住民なのです。明治9年7月30日の選挙の歴史を踏まえ、市はこの日を「男女共同参画の日」に制定しました。この機会に、現在の島田市における「男女共同参画」について考えてみましょう。

平成25年8月に実施した住民アンケート調査では「自治会・町内会などの地域行事への参加は主に夫の役割である」との回答が、高い割合になっています。性別による役割分担意識などのため、地域活動の代表は男性が多く、女性が計画や方針決定の場合へ参画できていないようです。

この結果を受けて、市では「第2次男女共同参画行動計画」（3月に策定）で、基本的施策のひとつとして「地域における男女共同参画」を掲げ、事業を実施していきます。

男女がともにまちづくりに参加し、さまざまな意見を出し合えるまちにしていきますか。

今回は、男性が多いイメージの地域の防災や安全活動に、女性の視点や経験を生かそうと取り組んでいるお二人を紹介します。

※7月30日(木)に島田市初の試みである

「島田市女性議会」を開催します（詳しくは今月号の裏表紙をご覧ください）。

男女ともに 輝けるまちがイイ

～互いに尊重し、支えあう、
心豊かな社会の実現を目指して～
市民安心課 人権・男女共同参画係 ☎ 36-7121

女性のソフトさを消防団活動に

もともとボランティア活動に興味があったところに、消防団の方からのお誘いがあったて入団しました。主に広報活動を担当し、春と秋に火災予防を消防車から呼びかけたり、街頭広報を行ったりしています。

小さなお子さんへの防火講習や地域での救命救急講習では、女性ならではのこまやかな気配りなど、ソフトさを生かしているのではないかと思います。

現在の女性消防団員14人のほとんどが仕事を持っていますが、自分たちのできる範囲で両立しています。仕事で急に出られなくなったときに交代するなど、互いに支え合いながらの活動です。より多くの仲間を求めています。

最近では、女性もバリバリ働き活躍できる時代になったと思います。とはいえ、知らないうちに「男は、女は、こうあるべき」というイメージを植え付けてしまっているかもしれません。一人ひとりの個性や能力などを十分に発揮できる世の中になってほしいと思います。周囲に感謝しつつ今後もがんばりたいです。



村田有里さん（消防団員）

女性交通指導員を増やしたい

義父やご近所の人が交通事故で亡くなって、供養のつもりで市の交通指導員になりました。今では、朝、街頭に立つときに接する子どもたちの笑顔や挨拶がうれしくてやめられなくなっています。委嘱されてからもう15年になります。あと5年は続けたいですね。

朝は家事などで忙しい女性が多いから、50〜60歳代の女性に交通指導員として期待したいですね。やっぱり、子どもの細かい様子にまで目が届くのは女性だと思われ、女性がいると明るくなると思いますよ。今は女性交通指導員が私一人なので、ぜひ女性に加わってほしいです。女性が盛り上げ男性が引きしめるなど、男女がいてこそ成り立つ社会だと思っています。



山岸敏子さん（交通指導員）



子どもたちの笑顔のために